

第23号

平成25年1月21日発行

岐阜工業高等専門学校

教育後援会通信

編集：教育後援会事務局

あか

2012年10月27・28日
第48回高専祭

地区懇談会に参加して



教育後援会 副会長

石原 佐多志

十一月十七日に開催されました、飛騨地区の保護者懇談会に参加させていただきました。飛騨地区は在籍者数二十六名と少人数の地区ですがそのうち十八名の参加をしていただきました。

学校長の挨拶や校務報告等があり、その後、一、二年生と三、四、五年生とに分かれての分科会となりました。飛騨地区の場合、生徒皆さんが寮生ということもあり、寮生活での話題が多く出たように思えます。

なかでも季節がらでしょうか風邪やインフルエンザなどの時の対処の方法など病気やケガの事が親御さんとしては心配であることが当然ではありますが共通の話題ではありました。通学生とは違い常に顔が見られないやりとりの中で対応ではありますが、学校関係者の皆様方に見守られて助けられている実感が得られたのでないでしょうか。

あいにくの雨の中でしたが、御参加して頂きました保護者の皆様及び、学校長をはじめとする先生方ありがとうございました。

『地区懇』の意義

愛知県地区理事 豊島 諭介

愛知県地区の地区保護者懇談会（地区懇）が、11月3日に一宮市にある「エコハウス138」にて開催されました。

勿論その主役は『保護者』の方々です。愛知県ということで、参加された方の約半数のお子さんが寮生活を送っています。1・2年生の親御さんからは、最近めっきり減ったメールや電話の為、学校や寮生活の現状が把握できず、また通生も家では何もしゃべらないからと、それらの事や進級について等、それぞれの不安な気持ちや質問に、先生方や他の親御さんよりお話やアドバイスがあり、少し安心された様子でした。さて、3・4・5年生の親御さんの話題は主に進路です。進級や研究室について、大学への編入状況やその後の大学院進学の話、就職状況等です。いちばん近い生の声を聞く事が出来、「なるほど!」と、とても参考になります。『地区懇』は、普段できない横との繋がりと情報交換の場として、是非より多くの方に参加いただきたいと思います。その価値はありますよ!

開催にあたりまして、地区委員の皆様ご協力ありがとうございました。また、ご参加いただきました各先生方に御礼申し上げます。

最後になりますが、開催3日前の夜に、愛知県地区で5年生の学生さんが交通事故により他界されました。息子と同級生という事もあり、とても残念でなりません。開会の折に全員起立し黙祷を捧げました。心よりご冥福をお祈りいたします。

地区保護者懇談会に参加して

西濃地区委員 浦田 志保

山々の紅葉が美しい11月。自然の景色もさることながら、岐阜高専に通わす親としての理解を深め、実りの多き秋になるよう参加しました。

分科会でのテーマは、「進学と就職」です。先生からの資料に基づいた現在の進路状況はとても参考になりました。中でも担当の先生から「自分で自分の道を切り開く力を持つことの大切さ」についての熱心なお話があり、就職難とも言われる現在に重く受け止めることができました。

2年生として成長をしつつあるわが子。恥ずかしながら、日頃のコミュニケーション不足もあり、同じ学科で各学年の保護者の方々からのお話は、そんな私自身の疑問や不安に思っていたことが和らぎました。しかも、気軽な雰囲気でお話し合える感じもよかったと思います。



平成24年度地区別保護者懇談会(岐阜会場)

保護者見学会に参加して

4年 保護者 日下部 譲

平成24年6月15日に、岐阜高専教育後援会事業「保護者見学会」に今年も参加させて頂きました。この事業実施に当たり、教育後援会役員の皆様、学校の先生方初め皆様のご尽力に誠に感謝いたします。今年度は、電子制御工学科長のご協力により、愛知県犬山市にあります村田機械(株)犬山事業所を見学いたしました。

当日バス3台で、学校集合の方とJR岐阜駅集合の方が、川島ハイウェイオアシスで3台合流し、現地に向かうバスの中では、各学科長から現状の様子のお話し、質疑応答等が実施されました。毎回思うのですが、他学年・他学科の保護者の意見・質問・答えが聞けるこうした機会は非常に有意義だと思います。子供の今後の進路を考える上でとても参考になります。

見学先の村田機械(株)様は、紡績機械を初め、様々な工作機械、物流機器を製造するメーカーで国内外に事業所を持つてみえます。工場内はとても綺麗に整理・整頓が実施されており、普段は見えない部品の一つ一つも非常に美しく、精度の高い機械の生み出だす心意気を感じました。また精度を上げる工夫が工場内の至る所でありました。一例を挙げますと、自動車の製造ラインでは製品がライン上を移動しますが、村田機械さんでは、製品は固定しており製造スタッフが移動します。製品の移動による精度低下を最小限に抑える工夫だそうです。

この保護者見学会には毎年女性の参加が多く、仲の良い友人同士での昼食は楽しみの一つで、名古屋ヒルトンホテルでの料理で、舌鼓を打ちながら楽しい話に花が咲いておりました。こうした見学会に、高専生の保護者という事で、参加出来る事を大変嬉しく思うと共に、普段の自分の仕事にも活かせるヒントが多くとても感謝いたします。

海外インターシップ報告

建設工学専攻1学年 井藤 宏紀

今年（2012年）の夏、私はイギリス北部のダラムという町にあるTYK Limitedにて研修をさせていただきました。

インターンシップでは主にランスパイプ・連続鋳造耐火物の製造の補助など軽作業を行いました。当然、仕事中の会話などは全て英語で最初の頃はコミュニケーションが取れず試行錯誤の連続でした。しかし、TYK Limitedのスタッフの方々はとても親切で、簡単な英語での指示や、また仕事の合間や昼休み中に何度も話しかけていただき、次第に英語を苦と感じないようになっていきました。また、日が経つにつれて自分からもコミュニケーションをとることができるようになりました。インターンシップ期間中は様々なことを教えてもらいながら体験することができました。最後に、このような機会を与えてくださったTYKの方々、ならびに関係者のみなさまに感謝の意を表します。ありがとうございました。



ダラム 街外観



TYK Limited外観

電子システム工学専攻1学年 篠田 篤

私が今回の海外インターンシップで感じたことは多くありますが、最も印象に残ったことは、職に対する考え方の違いが予想以上に大きかったことです。工場の日本人スタッフの方から、「こちらの人は働かずに生活していこうと思えば生活保護制度で生活していける」「給料や条件が良かったら移るのは当たり前」など、イギリスでの職に対する考え方について話を聞きました。実際に同じ現場で働いていた現地の人の話を聞いてもその通りで、これまでの情報だけではわからなかったいろいろな側面もわかりました。これから、会社への所属が流動的になると言われている日本で、職に対する姿勢について、日本的なものかイギリス的なものかどちらが良いのかはまだわかりませんが、これから私が研究を続け、就職し、社会人として働いていく時に、今回イギリスに行き、実際に見たことや体験を生かしていきたいと思います。

電子システム工学専攻1学年 磯谷 剛士

この度、海外インターンシップとしてインドネシア・バンドン工科大学での修学を経験し多くを学ばせていただきました私ではありますが、かの地に赴き最も感銘を受けた事、それは学生のみならず現地の人々全ての活力でした。

インドネシアは人口が多いため、全ての人が安定した職を持てるわけではありません。人々が生きるために様々な仕事を探し、懸命に日々を生きる姿には日本では感じ得ない程の非常に大きな活力がありました。

広い視野に立ち外国を見聞すること、そして日本を外から感受することで得られる経験は貴重なものばかりで、今の自分や日本に足りないものを多く気付かせてくれます。インドネシア、東南アジア南部に位置するその国は私を大きく成長させてくれました。

ありがとうございました。



建設工学専攻1学年 浅野 仁美

私はインドネシアのバンドン工科大学(Institut Teknologi Bandung, ITB) で実習をさせていただきました。

ITBでは土木・環境工学部、環境工学科のアセップ先生が講義をして下さり、今まで知らなかった環境問題についての幅広い知識や、インドネシアと日本における環境教育の違いなどを学ぶことができました。また、勉学に熱心であり、私たちがこれから国を支えていくのだという、強い使命感を持ったITBの学生に刺激を受けました。

週末には、ITBの学生と共に、日本では見られない広大な敷地の動物園や、伝統的な楽器の演奏会に行き、忘れられない思い出となりました。とても楽しく、そして学ぶことの多い3週間でした。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、支援してくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



バンドン動物園にて



ホストファミリーの皆さんと

建設工学専攻1学年 豊田 智大

インドネシアを訪れた我々を待っていたのは、日本では到底経験することの出来ないような生活と、目を疑うような光景でした。まず驚いたことは、現地の道路では車同士の間を縫うように二輪車が走行していることです。その一方で、横断歩道も満足に整備されていないため、横断者は危険を冒して、車の間を渡らなければなりません。また都市環境に関しても、現地の方々は、当然のようにゴミに囲まれた生活を送っており、大気や水質汚染の観点から見ても、子供たちに安全で快適な暮らしを保障できているとは到底言えません。今回、海外インターンシップに参加して得たものは、大きく2つあります。1つは、このような問題を抱えた国の将来を担う現地の学生に、「海を渡った先に、日本のような、こんなにも住みやすい国があるのか」と認識してもらえたことです。

もう1つは我々高専生が、「こんな日本とは違う問題を抱えた国もあるのか」と認識する機会が得られたことです。グローバル化が進展し、国を越えて協力する必要がある今日において、相互の理解を深め、同じ目標に向かって共に取り組む機会が得られることは、海外インターンシップ最大の魅力であると感じます。



行事予定

◆教育後援会行事予定

平成25年 4月21日(日)	教育後援会役員会 10時30分～13時(平成24年度役員)
5月12日(日)	教育後援会総会 13時30分～15時

◆主な学校行事予定

1月27日(日)	第46回吹奏楽部定期演奏会(大野町総合市民センター)
26日(土)～27日(日)	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト(東京)(主管:和歌山)
2月 4日(月)～8日(金)	後期期末試験(5年)
12日(火)	補講・補習(1～3年)、平常授業(4・5年)
12日(火)～15日(金)	後期期末試験(専攻科)
15日(金)	平常授業(5年)
15日(金)～22日(金)	後期期末試験(1～4年)
18日(月)	平常授業(5年)
18日(月)～20日(水)	フォローアップ授業・補講・補習期間(専攻科)
21日(木)～28日(木)	特別研究補講(専攻科)
22日(金)	入試会場準備(1・2年大掃除)
25日(月)	休講
26日(火)～3月1日(金)	フォローアップ授業・補講・補習期間(1～4年)
3月 1日(金)～19日(火)	休講(専攻科)
2日(土)	寮生部屋替
3日(日)	閉寮14:00
3日(日)～5日(火)	寮生会役員合宿研修(乗鞍)
4日(月)～19日(火)	休講(本科)
19日(火)	第46回卒業式、第17回修了式 閉講
20日(水)	学年末休業始
31日(土)	学年末休業終、後期終、学年終



高専ロボコン 岐阜高専ロボット 6年連続で全国ロボコン出場

11/25東京の両国国技館で開催の高専ロボコン2012全国大会に6年連続で出場をはたした。本校のロボット「PETLIAN」は、東海北陸地区大会では一度も達成できなかったパーフェクトを1分以内に達成したが、同じくパーフェクトの「空兎と空亀(松江高専・中国地区優勝)」にタイム差で惨敗した。参加したどのロボットも完成度は高く、30秒をきりパーフェクト達成が優勝の条件であった。本校の結果は1回戦敗退であったが、スピードが要求される競技で緊張したと思うが、練習どおり力を発揮した選手を讃えたい。しばらくゆっくり休んだ後、来年に向けて7年連続出場と初優勝あるいはロボコン大賞を目指して始動して欲しい。

副校長(学生主事) 吉村 優治

海外語学研修

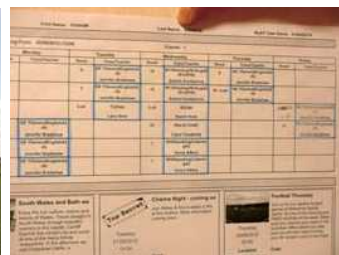
建築学科2年
中田 帆南

今年の夏、海外語学研修でイギリスのケンブリッジに行ってきました。

初めての海外留学で最初の方は英語がわからず、コミュニケーションがとれなかったことが多くありましたが、ホームステイ先の人や、ルームメイトの子達が ジェスチャーで伝えてくれたりゆっくりと話してくれたりしたので少しずつコミュニケーションをとることができるようになりました。他にもロンドンに行ったり、ストーンヘンジに行ったりと、とても思い出に残る体験ができました。

色々なところへ行ったり、クラスメイトと話したりして感じたことは、自分の英語力のなさです。発音が違って通じないときもあったし、逆に理解できないこともあったので次に外国に行くときは、英語でコミュニケーションをとる勉強をして行かないとダメだな、と思いました。

学校では文法も多く勉強しているけど直接声に出して英語を使うということが全然ないので自主的に英語の勉強をしていきたいです。また、今回の体験を生かして、これからもいろんなことに挑戦していきたいと思いました。



発行:岐阜工業高等専門学校・教育後援会事務局

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236-2

TEL.058-323-8752

FAX.058-322-6571

E-mail gnctk@iaa.itkeeper.ne.jp